

## 革新市政とはなにか



大崎平八郎

「革新市政」という言葉がよく使われている。革新市政とは、ふつう一般的、常識的には、革新政党に所属する人が市長になった市の行政のことを指して使われているようである。しかし、それは革新市政という言葉の一面的な、機械的な解釈にすぎないのであって、革新市政のほんとうの意味は、革新市長がおこなう市政の内容・中身の問題であり、市政がほんとうに「革新的」であるかどうかにかかわる問題であるといわなければならない。革新政党员が市長に当選したら、その翌日から自然に、その市の市政が革新市政になるといったものではないはずである。革新市政とはそんなに安易にできあがるようなものではないとおもう。当然すぎるほど当然のことを言ったまでであるが、しかし市長の任期第一期を終えようとしているいま、飛鳥田市長はもちろん、革新市長の出現に一票を投じた市民のひとりびとり、とりわけ革新市長の所属する社会党は、「革新市政」とはなにか、革新市政はどうあるべきかについて、徹底的な検討をおこなうべき段階にきているのではないだろうか。

3割自治とか1割自治という言葉で表現されているような現在の地方自治制度のもとで、革新市長が保守党の市政とは本質的にちがった、いわゆる「革新的な」市政を実現していくことは、想像以

上にたいへんなことだとおもう。革新市長は、保守政治家とすこしもちがわない「綱渡り」的な市政になりかねない危険につねにさらされている。とりわけ横浜市のおかれている条件は、他のいくつかの革新首長下の都市にくらべていっそう悪いようである。第1に、過去20年ちかくつづいた保守党市長下での市の復興計画がすでにかなり進行中であり、それらの計画は革新市長の出現によっても容易に変更できない状態にあったこと、第2に、東京のベッドタウン化する危険にさらされていること——そのために、学校建設、上下水道・道路建設等に多額の支出を余儀なくされているがこれは政府または東京都の無策な住宅政策のしりぬぐいを横浜市民の血税でしているようなものである。第3には、となりの川崎市や北九州市のような工業都市とはちがって、飛鳥田市政を支える大衆的基盤は、労働者階級よりもどちらかという小市民層であり、その結集力は弱い。現在の市議会の構成はそのことをものがたっていると思う。このような悪条件のなかで、「革新市政」をいかに実現していくか、どこまで追求していくかが飛鳥田市政の課題である。

これまでの過去4年間の飛鳥田市政は、学校建設<教室の増設、プール・講堂の建設>の増加、子供のひろば、「市民白書」の発表や1万人市民集会の構想などに飛鳥田さんらしい文化的においのする市政の努力のあとがみられるが、その大部分は保守党市政のしりぬぐいであり、飛鳥田市政にとっては、これからが本番である。

飛鳥田さんはこれからの横浜市発展の基本構想として、横浜市を、「工業都市」、「港湾都市」、「住宅都市」という3つの顔をもった都市と規定し、<6つの基本事業>と<市民の福祉にこたえる総合計画>の2本柱からなる発展プランを発表している。ここでは、この発展プランについて論ずる余裕はないが、この発展プランが「革新市政」

のなかでどのように位置づけられ、推進されようとしているのだろうか。

以下簡単に、現在の保守体制下で革新市政を実現していく場合に考慮されなければならないと思われる、必要最小限度の問題点についてふれておきたい。

第1には、首都に隣接する大都市において革新市政を貫徹していく場合に、革新市政の内容、中身の中心におかれるべきものはなにか、どんなことを必ずやり、どんなことをしてはならないか。なにを助長し育て、なにに抵抗しなければならないか、についてつねに徹底的に考えぬくことが大切ではないだろうか。つまり原則という筋を一本はつきりと貫く姿勢を崩さないこと。

第2には、革新市政を実現していくうえに不可欠な要素は、革新市政を支える階層の力だと思うが、このような階層の力と発言力をつよめ、結集させるための方策について真剣な考慮がはらわれるべきだろう。そのためには、(1)市議会内における革新勢力を強化する問題があるが、この方向で社会党はこの4年間どれだけ努力してきたか、その結果はこんどの地方選挙が示すだろう。(2)市民大衆の政治参加の問題であるが、この点では「市長への手紙」や「1万人市民集会」の構想が出されているが、後者は市議会の抵抗にあって行きなやんでいるようだし、たいした期待はかけられないだろう。それよりも労組、婦人団体、学生、文化人など意識的市民層を市政に積極的に参加させるような、具体的方策が追求されてよいのではないだろうか。

第3には、社会党の全体、とくに党中央執行委員会に革新市政を指導し支援する態勢がなければならぬはずだが、その辺のところはどうなのだろうか。横浜市政は、社会黨員たる飛鳥田個人に完全にまかされているのだろうか。具体的な飛鳥田市政をつうじて、社会党の政策、綱領、体

質が試められ、大衆の批判にさらされているのである。革新市長をおくりだした以上、政党はもっと責任をもち、指導体制をつよめる必要があるのではないだろうか。

あまりにも自明で原則的なことしか書かなかったが、これらの問題について明確な態度と方策をもっていないと、任期が終わってみたら、せっかく社会党の国会議員として有能な飛鳥田さんを市長としておくりこんでおきながら、結局は、保守党のだれかが市長になった場合と大した違いはなかった、ということにでもなると、飛鳥田個人だけでなく、社会党にたいする大衆の期待が失なわれさらに社会主義なるものにたいする大衆の失望感をつよめることになりかねないからである。保守体制下の大都市の革新市政のむずかしさ、革新市長の憂うつはここにある。

<横浜国大経済学部教授>